

# 3月号 アグリワークポイント（ミカン）

## 『3月の管理』

3月は気温の上昇と共に春芽が動き始めます。生育の手助けができるよう剪定や春肥の施用を行いましょう。

### 《改植》

経営を重視した品種構築と老齢樹など生産力の低下した樹の若返りを図るため計画的に改植を進めましょう。苗木は乾燥に弱いため、①根を乾かさない、②植え付け後充分なかん水を行います。

### 《剪定》

近年、園地内でも樹毎で着果のバラツキが増えています。同じ園地内でも樹の状態に応じた剪定を行いましょう。

幼木については、不必要と思われる枝の間引きを行い、収量増加に向けた樹冠拡大に努めます。成木については、主枝と競合している立ち枝や逆行枝を元から間引き、古くなった側枝の更新をしてください。

また、平成27年産は表年が予想されます。花が多いと思われる樹については、早めの剪定により内部まで光を当て発芽を促しましょう。

### 《春肥》

春肥は発芽した春芽の充実や幼果の肥大、発根に影響を与えます。地温が12℃前後となる3月中旬頃に施肥してください。また、春草は除草し、施肥後の吸収効率を高めるために、中耕を行ってください。

#### 3月中旬

- ・早生 柑配6号4袋(80kg)
- ・青島 柑配4号5袋(100kg)

### 《病虫害防除》

かいよう病の発生が増えています。発生が見られる園では、剪定で罹病した夏秋梢をできるだけ剪除し、3月の発芽前に防除を行います。

1月にカイガラムシ類・ミカンハダニの防除をされていない場合はマシン油乳剤を散布しましょう。ただし、ICボルドー66Dとの散布間隔は14日程度空けてください。

- ・かいよう病 ICボルドー66D 60倍
- ・ミカンハダニ、カイガラムシ類 マシン油乳剤(97%) 60倍